

## 2014年 九州大学山岳部冬合宿報告

### ◆ はじめに

2014年26日から30日にかけて行った冬山合宿について報告する。

### ◆ 参加者

- 3年 中本裕哉 (CL)
- 2年 永田拳吾、村松弾(SL)
- 1年 光岡健、山崎史也
- OB 中溝幸夫、米澤弘夫

### ◆ 行動記録

12月26日 (1日目: 山崎) 新穂高温泉～穂高平 天気: 雪

14:00に新穂高ロープウェイ駅から穂高平小屋へ向けて出発。天候はずっと雪がしんしんと降っていた。西俣林道への入り口が分かりづらく、14:20にようやく入り口へとたどり着く。林道にはトレースがあり、ゲートから砂防堤付近までラッセルはなかった。砂防堤付近からのラッセルは膝下程度であり、途中からワカンをつけて、歩いた。16:15に穂高平小屋に到着。テント設営を行い、17:00に中本・村松・光岡の3名はルート偵察およびデポへ出発、ラッセルは膝から腿ほどであったとの報告。尾根沿いにトレースを発見、尾根を少し上がったところにデポ(17:40)。永田・山崎はテントに残り夕食作りを行う。17:30、OBの方々が穂高平小屋に到着。18:00にデポ偵察隊がテントに到着。その後、中本・村松でOBのデポ回収へ出発しテントに帰着(18:40)。21:00に就寝。

12月27日 (2日目: 村松) 穂高平～AC 天気: 晴れ

- 4:00 起床
- 6:00 出発
- 10:40 1946mピーク
- 15:45 2300m AC

4:00起床。いよいよ今日は西尾根に取付く。天気予報では29日から天気が崩れるので、今日中に2300mのACまで荷上げしなければならない。朝食はα米に麻婆春雨をかけたものだったが、個人的には今まで食べた山の朝食の中で一番美味しかった。美味しい朝食を食べればモチベーションも上がるものだ。テントを撤収し、6:00出発。まだ夜明け前であるが寒さはそれほど感じない。昨日つけたトレースをたどり尾根に取付く。デポを回収して間もなくトレースは消え、いよいよラッセルが始まる。ただ、思っていたほど雪は深くなく、膝～腰下くらいのラッセルが続く。尾根筋に上がるあたりから傾斜も増してきたので、先頭が空荷になってラッセルを進める。1900mあたりから傾斜は緩み

始め、10:40、1946mピークを通過。膝くらいまでのラッセルが続き、2000mあたりから尾根が痩せ始める。このあたりから雪に埋もれた木・笹に足を取られることが多くなる。15:45、2300m付近の平坦地にAC設営開始。ACまでは終始、樹林帯であったが、一日中好天に恵まれ、樹間からのぞく笠ヶ岳、槍～穂高のスカイラインが美しかった。明日の ATTACK に備えて、早めに夕食の準備を始める。夕暮れになると眼下に一面の雲海が広がり、皆思わず感嘆の声をあげてしまった。明日もいい天気になりそうだ。その後夕食を済ませ、19:00ごろ就寝。

12月28日(3日目:中本) AC ⇒ JP ⇒ 山頂アタック 天気:晴れ

5:00 起床

6:20 出発

9:40 第一岩峰通過

10:20 JP手前のピーク

11:00 JP

13:00 山頂直下のピーク(撤退)

16:45 AC

天気は快晴。絶好の ATTACK 日和。6時に BC を出発する。ペースを上げていきたいところであるが雪が深くラッセルがなかなか進まない。OB からもアタックなのだからノロノロするなど喝が入る。三時間程で第一岩峰に到着する。事前に目を通した山行記録では右から巻くとのことだったが、米澤先生から以前は直登したとのことと(先生にとって西尾根は今回で4回目)、雪が深いことを嫌って、やや左上してからルンゼを上がり直登することに。登りは問題なかったが下りはザイルを使用した。岩峰に上ったところでワカンでアイゼンに切り替える。スペースが狭かったので登る前の鞍部でやっておけばよかった。ここで永田が前日痛めた腰の不調を訴えたため一人で BC まで帰らせる。米澤先生がトップでフィックスロープを80メートルほど張り岩峰から抜ける。ジャンクションピークの一つ前のピークにて、時間を考慮してアタックは中本、村松の2名で続行し、一年生と OB は引き返すことに。さすがに森林限界を抜けると風が顔に痛いほどに叩きつける。それでいてクラストした地面にアイゼンがシャリシャリと刺さる音は心地が良いものだ。岩と雪のミックスを時折、残置フィックスを利用しながら抜ける。頂上の一つ前の2860メートルのピークにて時間切れとなり撤退することに。今思えば我々の技術と体力では彼処までが限界だったのかも知れない。アイゼンの爪が前の2本しか刺さらず、ピッケルもブレードが少しも入らないミックスを登るのは一手一手、一步一步が緊張の連続であった。事実、私はかなり精神的に疲れていた。帰りは来た道を引き返すのも恐ろしいので、というか来た道を引き返していたら間違いなく滑落していたと思う…腹を括って谷を駆け下りることに。雪崩の危険も考慮したが、入山してからの積雪は少なかつたし、雪もしっかりしまっ

ていた。途中 150 メートルほど滑るもピッケルストップで制動できた。雪上訓練が活きたのであろう。一気に第一岩峰の取り付きまで下りデポを回収した後、かなり憔悴した状態で BC に帰り着いた。暖かい紅茶オレと塩胡椒がきいた豚汁が本当に美味しかった。無事に帰ることが出来て良かった。

12月29日（4日目：永田） AC～穂高平 天気：曇り時々雪

04:00 起床

06:20 出発

07:00 雪洞

10:00 穂高平

昨晩は雪が降ったため、夜中に時折テントに積もった雪をはたきながら眠った。予報の通り、この日から天気は下り坂に入ったようだ。昨日の内にアタックが出来たのは幸いだった。昨晩降った雪のせいでトレースは所々消えかかっており、赤旗や赤布を頼りに下った。私見だが、この西尾根は去年の鹿島槍ヶ岳赤岩尾根と比べ樹林帯の密度が高く道に迷いやすく感じた。尾根という山頂に集約する地形上の問題だろうか、登りよりも下りのときのほうが道に迷いやすい印象を受ける。7時頃に雪訓として雪洞を掘るが、雪の厚さが足らず断念する。途中 2 箇所のデポ地点でデポを回収しながら下る。この日は穂高平まで降りて一泊し、翌日下山の予定となっていた。そのため下山時特有の高揚感というものが半端で、いつもよりも落ち着いた心持であった。山崎は今日が下山日だと思っていதாக、元気だったが、今日が下山日ではないことを教えるととたんに勢いを失い、疲れを見せていた。人間気の持ちようが大事なのだとはよく分かる。穂高平到着後は皆ゆっくりとテントで休んだ。光岡はテント設営後もしばらくかまくら作りに勤しんでいたようだ、元気なものである。穂高平では行きには見られなかった社会人の登山者も多く見られた。明日以降の悪天候が気になっていたが、下山後年末・年始のニュースで北アルプスでの遭難者が相次いでいることを聞き、早めに下山した判断が間違っていなかったことを実感した。

12月30日（5日目：光岡） 穂高平テント地 ⇒ 新穂高温泉 天気：雪

5:30 起床

7:30 穂高平発

8:30 新穂高温泉

9:48 解散、バス乗車

前日は 18:30 就寝だったため、たつぷりと寝ることができた。夜中雪は降り続いたが、テントの雪落としをするほどでもなく、テント撤収は比較的簡単だった。アイゼンを付け、

楽々下山。新穂高温泉まですぐだった。しかしここで、下山届を出し建物に入った後、突然吹雪になった。下山途中、これから我々と同じルートを登るパーティとすれ違い、これから登るのはとても大変だと感じた直後には、我々はすでにバスの中で帰宅途中であった。満員のバスで高山に着いた後は温泉につかり、汚れと疲れを取った。全員この日に帰宅できた。

#### ◆個人感想

##### 光岡 健

山岳部の部会に参加し、急遽この合宿に参加することとなったのだが、最高の合宿となった。初めての雪山とラッセル、アイゼン、始終快晴の空とテントから眺める見飽きない夕焼け。雪がたわわに積もった木々は、近くから見上げて、僕が登った最高地点、ジャンクションピークの手前から眺めても、今までに見たことないほど美しかった。先輩からは、雪山の技術をいくつも教わり、付いてきてくださった OB の先輩方からは面白い話を数知れず聞くこともでき、本当に感謝している。一つ心残りを言えば、雪上訓練（雪道掘りなど）をしたかった。次に機会があるときにぜひともしてみたい。OB の先輩は、現役の頃 60kg の荷物を持って北アルプス入山したり、そのために日々の生活で毎日のトレーニングをしたりしていたという話を聞いた。僕は、重い荷物持ってラッセルして体力を使い果たすことに満足していたが、まだまだスタミナが足りないことがわかった。さらに、岩綾帯を歩いている時、ロープを使った技術が明らかに不足していることが身にしみた。先生のおっしゃる「バテない体」作りと、ロープ技術の習得を、次の目標にしたい！

##### 山崎 史也

初めての冬山で初めての雪の上での山行は思っていた以上にしんどかった。一日目はラッセルすることもままならないほどバテてしまいチームの負担を増やしてしまった。やはり OB の方がおっしゃっていたようにバテない体作りが必要だと感じた。二日目からはようやくラッセルができるようになったがやはり体が思い通りに動かず自分の体力のなさを感じた。これからはとにもかくにも体力向上が第一優先で次に歩荷力を鍛えていきたいと思う。今回の冬合宿は OB の方々から多くのことを学びとても実りのある合宿であったと思う。

##### 永田 拳吾

2日目に腰を痛めてしまい、ペースが遅れ、アタックの日も途中で引き返すことになった。特に腰を痛めるようなことをした訳ではないにもかかわらず、かなり長い間痛みを引きずっており、原因がはっきりと分からない点が不安である。自分は歩き方に癖があるので、その点も踏まえ観察を続けるつもりである。今までの合宿では毎回靴擦れをおこしていたので、今回の合宿では厚手の靴下を 2 枚履きしていたが、これが良かったのかほぼ靴擦れを起こすことなく合宿を終えることが出来た。

去年・今年と冬合宿は尾根伝いの登山となったため、雪崩の危険を考える必要がある谷間を歩く経験がないのが気がかりである。来年以降の冬合宿ではこの点に留意したい。

今年の冬合宿は天候に恵まれ、比較的心に余裕を持ちながら登山を楽しめてよかった。過去二回の夏合宿と冬合宿では天候に恵まれずこれがリタイヤの一因となっていることを考えると、今後の合宿では直前の天気予報を踏まえ、合宿の開始日をずらすことを念頭にいれるのもアリではないかと思う。もっともこれは部員のスケジュールの調整に大きく負担をかけるので要相談といったところだろうか。

### 村松 弾

去年の冬山ではバテて足を引っ張ってしまったが、今年の冬山は積極的に行動できたと思う。去年よりもラッセルが楽だったせいもあると思うが。景色を楽しむ余裕もあった。ただ、アタックの後半ではさすがに疲れが出てしまった。今回は時間切れで頂上までは行けなかったが、もし時間に余裕があったとしても自分は頂上まで登れなかったかもしれない。今回の合宿では、ラッセルやテントではOBのアドバイスをいただくことができ、岩稜でのロープのフィックスの方法も知ることができた。また、アタックでは雪稜や急な雪面のトラバースなどを経験できた。全体としてはとても実りの多い合宿になったと思う。

#### <目標>

絶対にバテないくらい体力に自信をつける。登山はスタミナが大事と言われたので、普段の山行以外にも自主的にトレーニングをして体力に自信をつけていきたい。

### 中本 裕哉

合宿を終えて、まずは全員無事に下山ができてなにより良かった。アタック日は天気にも恵まれて、改めて雪山の魅力を感じる事が出来た。結果として登頂はならなかったものの、新穂高平から 2800 メートルのピークまで我々だけで、ラッセルをして行けたことは大きな収穫が得られたと思う。ラッセル、岩稜歩き、アイゼン、わかん歩行など雪山での山行技術とテント生活について一年生は身に着けることができ、上級生はそれらを高めることができた。そして、同行していただいたOBからは、ラッセルやペグの打ち方など様々なことを教えていただいた。

それと同時に反省すべき事項もOBとの合宿をすることで数多く出てきた。以下にそれらと改善策を示す。①事前の計画段階について準備が足りない②登山技術、体力の強化①について、もともとは、槍ヶ岳に行く予定を積雪量や雪崩注意報などの気象条件などから、出発の2日前に西穂高岳に変更になった。これは、OBからの提言を受けてのことだった。というのも、私もニュースや岐阜県警のホームページなどで今年の積雪量が多いということは頭に入れていたのだが、OBはさらに岐阜气象台や新穂高登山センターに問い合わせ情報収集していた。さらには、地形図や過去の遭難事故から、雪崩の巣になりうる槍平方面まで入りこむのは危険だということでの計画変更となった。合宿の計画には様々

な見地からの情報収集に加え、時には機転を利かして気象に合わせた柔軟さも必要になってくると感じた。さらに装備についても、テントのポールの損傷、トランシーバー、ラジオの故障と合宿直前になってまで気がつかないのは、実際の合宿で命取りになりうる。ありがたいことに、今回の西尾根では携帯の電波が入ったために、トランシーバー、ラジオの代役となってくれたが。部室の装備類については、すぐに確認、場合によっては新しいものに買い替えたいと思う。②について、ラッセルは確かに経験値が異なるために教えていただくという形になったが、バテた者がラッセルの順番を乱してトップを OB に、数回してもらったことは恥じるべきだ。トップは空荷でラッセルしている以上、足場を固めるのはもちろん、距離を稼ぐことも頭に入れてもらいたい。そして、隊として動いている以上、そのスピードは一番遅い人に合わせて動くことになる。また、核心部のフィックスを米澤先生に張ってもらったことも反省したい。現役の合宿として行っている以上、あの場面で先生に甘えてしまったことは私のミスであった。トレーニングは毎週末に歩荷訓練、平日は各個人にまかせていたが、明らかにトレーニング不足を感じさせる者もいた。テントで OB からきいた話では、合宿直前は平日も毎日集まり体力作りをしていたとのことだった。これを受けて、習慣的に毎週の部会の前と、春合宿の直前は平日もできる限り集まってトレーニングをするようにしたいと思う（異なるキャンパスやバイトにより全員参加は困難だろうが）もしくは何かノルマを設けてもいいかもしれない。

大事なことは、山岳部の合宿としてアルプスに挑戦している以上、今回の合宿で学んだことを今後は、上級生がしっかりと一年生をリードして山行技術、生活技術を伝承していく体制を作り上げることである。そのためには、長期合宿をイメージしながら日々のトレーニングでこつこつと地道に力をつけるしかない。

#### ◆各係の反省

##### 医療係兼食料係（山崎）

冬山での水分確保はかなり重労働で重要であることを感じた。エッセンの中身でスニッカーズがあったが、あまりおいしくなかった。カンパンも大量に含まれていたがなかなか食べる気にならなかった。スニッカーズよりもブラックサンダーが良かったと感じた。夕食に関してはおしるこがとてもおいしかった。ペミカンカレーは量もちょうどいいと感じた。医療箱の温感湿布の数が少なかったので次回から枚数を増やさなければならないと感じた。

これからはとにもかくにも体力向上が第一優先で次に歩荷力を鍛えていきたいと思う。今回の冬合宿は OB の方々から多くのことを学びとても実りのある合宿であったと思う。

##### 交通係（永田）

年末は夜行バスの空席がすぐに埋まってしまうので、予約をとる場合は早めに済ませておかなければならない。

## 装備係 (村松)

OBからの指摘も合わせて装備をいくつか付け加えたが、なかでも小型ほうきはなかなか良かった。雪を落とすにはたわしよりも適している。V4テントはペグを埋めるための綱がついていなかったの、次の合宿までに付けておく必要がある。また、ペグももう少し小さいものでもよいという指摘も受けたので、改善しておきたい。

## 気象係 (光岡)

山頂を目指した12/27~29は快晴で天気に変恵まれた。しかし、下山直後に吹雪に見舞われ、日程を伸ばしていたら登山が困難になっていたと予測される。12/30~31で大寒波が来るという予報を考慮し、ACまで早めに登ったなど全体的に日程を繰り上げたことの功が奏したと言える。12/28には、天気が荒れる兆しの飛行機雲やいわし雲、気温上昇も観測され、実際その通りとなった。気象の視点から、今回の合宿は成功と言える。

## ◆OBからの指摘

### 山崎

- ・稜線を下るときは斜面に対して垂直にたつこと。とても怖いので慣れが必要だと感じた。
- ・夜トイレに行くときテントシューズで外に出ても問題がないこと。
- ・嗜好品の類いはケチらずにどんどん使うこと。荷物の重量が減ってありがたい。
- ・斜面のラッセルを行う場合、斜面に対して鋭角に蹴り込むと斜面に流されることなくきれいに足場が作れること。

・

### 永田

- ・竹ペグは頭までしっかりと打ち込むこと。今回は比較的天候に恵まれていたから良かったが、竹ペグの打ち込みが甘いとテントが飛ばされかねない。
- ・ラッセルのトップはしっかりと足場を固めながら進むこと。トップの役割はただ先に立って歩くことだけではなく、後続の足場を固めることである。ザックを背負っていない分、沈み込みが浅いことも考慮に入りたい。
- ・アイゼン、ワカンを同時に履くときはアイゼンをつけた後、ワカンの爪を上にして履くこと。

### 村松

空荷でラッセルするとき、先頭は歩幅を小さくする。→ セカンドの負担を軽減するため

- ・深いラッセルの手順

①目の前の雪を、シャベルを使ってなるべく多くかき落とす。

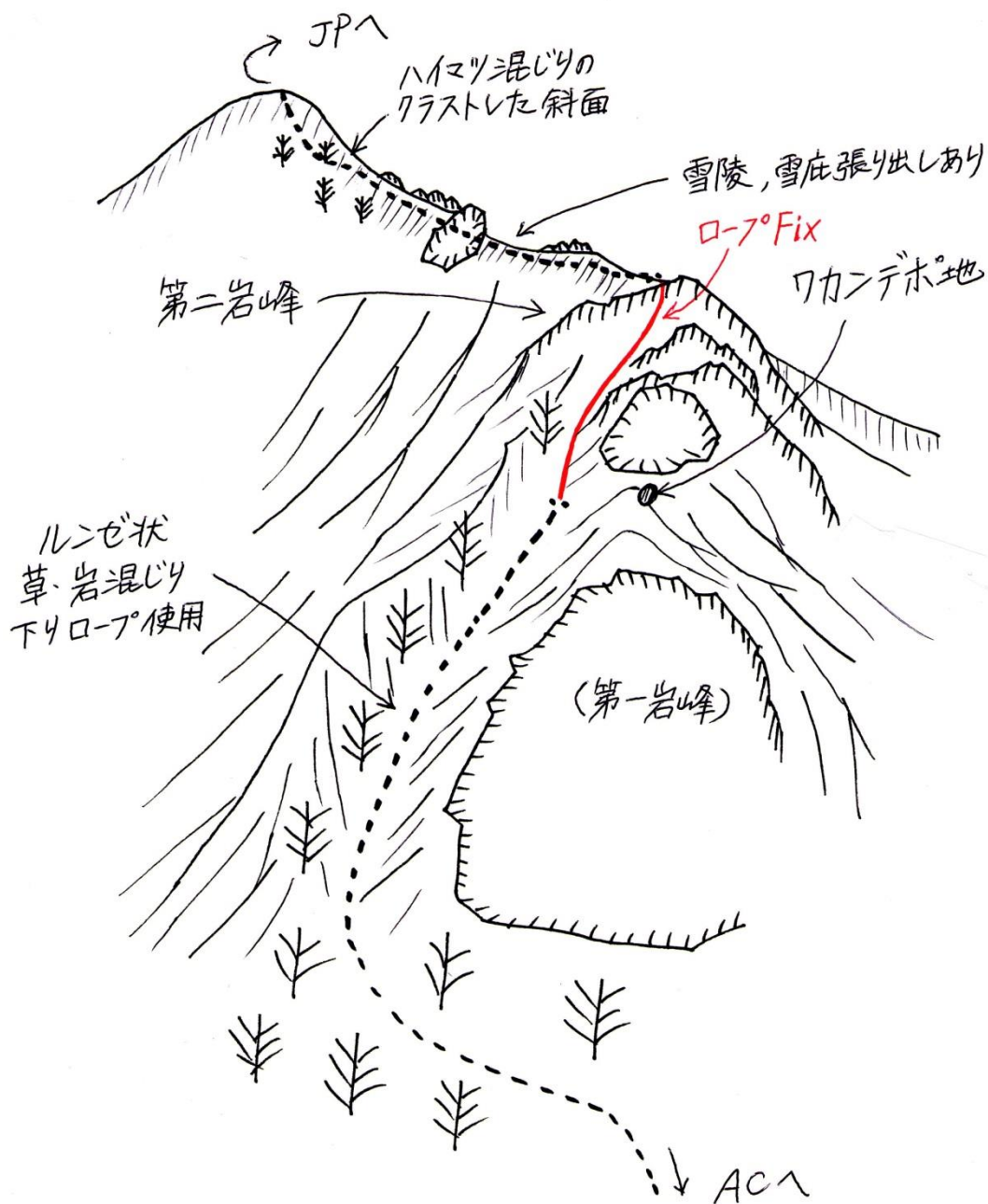
②膝で押し固める。

③押し固めたところに、斜面に垂直に足を蹴り込む。

→蹴り込む角度が浅いと滑ったり足場が崩れる。現役は蹴り込む角度が浅いことを指摘された。

以下の図は、西尾根の核心部（村松スケッチによる）

## <第一・第二岩峰>





<JP ~ 2800m? ピーク>

- △ 小ピーク
- 雪陵・尾根
- ⊖ 岩場

